

東京2020パラリンピックから1年 東京2020パラリンピック1周年記念イベントを有明アリーナで開催

東京都は8月24日（水）、有明アリーナにおいて、「東京2020パラリンピック1周年記念イベント」を開催しました。

本イベントでは、パラリンピック1周年を記念したセレモニーのほか、車いすバスケットボールのエキシビションマッチ、アーティスト等によるパフォーマンスなどを実施し、第一部で約4,200名、第二部で約5,000名、合わせて約9,200名の方にご来場いただきました。

また、会場外でもお楽しみいただけるよう、マルチアングルでのオンライン配信を行ったほか、大会のレガシーでもあるVRシアターを活用し、府中市郷土の森博物館プラネタリウム及び都内特別支援学校2校（北、八王子東）において、臨場感あるライブビューイングを実施しました。

■第一部

東京2020パラリンピック1周年記念イベントの開演に先立って、車いすバスケットボールの競技デモンストレーションを行いました。MC Umeさん、根木慎志さん、フィッシャーズのシルクロードさん、ンダホさん、マサイさん、ザカオさんが登場。根木さんは「ちょうど1年前の今日、東京パラリンピックが開催された会場で、皆様とともにエキシビションマッチに参加できることにワクワクしています」と語りました。

競技デモンストレーションでは、学生車いすバスケットボールプレーヤーと、リオデジャネイロ2016パラリンピックにも出場された永田裕幸さんとともに、ミニゲーム等を行いました。デモンストレーション終了後、フィッシャーズのンダホさんは「3分間の試合でこれだけの盛り上がりを作ることができた、パラスポーツの素晴らしさを皆さんと体感できたと思います」と語りました。



競技デモンストレーションを行うフィッシャーズさん



学生プレーヤーと永田裕幸さん

「開幕宣言」を行ったフィッシャーズのシルクロードさんは、「今日はパラスポーツの熱さや凄さ、そしてパラアスリートの強さを見ることができ、パラスポーツに興味を湧くと思います。これからもパラスポーツに注目してみてください」とパラスポーツの魅力を紹介しました。

オープニングパフォーマンスでは、とうきょう総文2022合唱合同チームの皆さんが登場。とうきょう総文2022大会イメージソング「きみへつなぐ」の歌詞の手話を会場に向けてレクチャーした後、「きみへつなぐ」の合唱を披露しました。来場者も歌に合わせて手話を行うなど、会場との一体感を感じるパフォーマンスとなりました。



とうきょう総文2022合唱合同チーム

続いて、国際エキシビジョンマッチに出場する車いすバスケットボール女子スペイン代表、女子日本代表の両チームが、プロジェクションマッピングによる選手紹介に合わせて入場しました。

両チームがウォーミングアップを行っている際には、会場にはMCのレクチャーのもと声援に代わる応援手法であるハリセンの音が響きました。両チームのスターティングファイブが紹介された後、エキシビジョンマッチがスタート。試合開始から20秒、スペインが最初の得点を決めました。両チームの実力が拮抗する中、11対10、日本がリードして第1クォーターが終了。その後スペインが着実にゴールを決め続け、32対22、スペインがリードして第2クォーターが終了しました。ハーフタイムには、Little Glee Monsterさんとダンサーの方々が登場し、「ECHO」を力強く披露し、「白杖ダンサー」や「車いすダンサー」の方々とともに会場を盛り上げました。

会場の興奮が冷めやらぬまま、第3クォーターがスタート。スペインがファーストブレイクによる得点を重ね、48対32、第3クォーターもスペインリードで終了しました。第4クォーターでは北田選手、柳本選手らが得点を重ねるも逆転には及ばず、60対47、スペインの勝利で試合は終了。激闘を繰り広げた選手を讃えるハリセンの音が会場を包みました。試合後、北田選手は有観客での開催について、「1年越しに見たかった光景の中でプレーができ、すごく気持ちよく車いすバスケットボールをすることができました。私たちのチームは未完成の部分が多く、一番必要なのは経験。次皆さんに見ていただくときに、成長したと思ってもらえるようなチームにしたいです」とコメントしました。



ティップオフ



北田千尋選手（中央右）

エンディングでは、Little Glee Monsterさん、ダンサーの方々、ミライトワ・ソメイティが登場。パラ応援大使としてこれからどのようにパラアスリートを盛り上げていきたいか問われた、Little Glee MonsterのMAYUさんは「東京でパラリンピックが開催されたことにより、パラスポーツをより皆様に知っていただくきっかけになりました。私たちも音楽を通じてパラスポーツを盛り上げていけたらと思います」と、パラスポーツを応援する思いを語りました。その後、Little Glee Monsterさんによる「世界はあなたに笑いかけている」がダンサーの方々のパフォーマンスとともに披露され、会場が盛り上がる中、第一部が終了しました。



エンディングの様子



Little Glee Monsterさん

■車いすバスケットボール体験交流会

第一部終了後、サブアリーナでは車いすバスケットボール女子日本代表、スペイン代表選手と、地元江東区の子供達との体験交流会が開催されました。子供達は女子日本代表、スペイン代表選手らによる基礎練習のレクチャーを受けた後、ゲームを実施。参加した子供達は、慣れない競技用車いすに悪戦苦闘しながら、両手を駆使して全力で車いすを漕ぎ、とても楽しそうな表情で選手たちとの交流を楽しんでいました。



体験交流会の様子

■第二部

第二部の開催にあたり、MC Umeさん、根木慎志さんから、車いすバスケットボールのルールや見どころを紹介。プロジェクションマッピングを活用して、ルールや選手のクラス分け・持ち点などについて紹介しました。根木さんは、「クラス分けはパラスポーツの最も特徴的なもの。これによりそれぞれの障害のある選手が公平にプレーできるし、戦術にも関わり、選手のプレースタイルを発揮することができます。スポーツを通じて共生社会を表現している、とても素敵なルールだと思います」と会場の来場者に伝えました。また「自分自身がプレーしているつもりになって、皆で今日のエキシビションマッチを盛り上げていきましょう」と来場者に呼びかけると、会場は大きな拍手に包まれました。



MC Umeさん



車いすバスケットボールについて語る根木慎志さん

その後、東京2020パラリンピック開会式で「片翼の小さな飛行機」を演じた和合由依さんが登場。HOME MADE 家族のMICROさんや、手話パフォーマーの橋本一郎さん、聴覚障害や視覚障害のあるダンサーの方々とともに、光と音楽が融合した躍動感のあるオープニングパフォーマンスが披露されました。このパフォーマンスには障がいの有無に関わらず全ての人がお互いを理解し合い、尊重し合える社会の実現に向けたメッセージが込められており、終了後は観客席から大きな拍手が響きました。



オープニングパフォーマンスの様子



和合由依さん

その後、IPC特別親善大使である新しい地図の稲垣吾郎さん、草薙剛さん、香取慎吾さんが登場。稲垣さんは東京2020パラリンピックの印象に残っているシーンについて、「水泳男子100m平泳ぎの山口尚秀選手が目の前で金メダルを取ったことに感激し、さらにメダル授与式でメダルをかけさせていただいたことは一生の思い出です」と語りました。草薙さんはパラスポーツの魅力について「パフォーマンスの中から、努力や勇気、向上心を感じられ、すごく刺激を受けています」とパラアスリートへの思いを語りました。香取さんは「このイベントを思いっきりエンジョイしてもらって、さらにパラスポーツを好きになってもらえたらと思います」と語り、会場を盛り上げました。

その後のパラリンピック1周年記念セレモニーでは、IPC特別親善大使の3人に加え、小池百合子東京都知事、森和之日本パラリンピック委員会会長、アンドリュー・パーソンズIPC会長、橋本聖子元東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長、水泳・鈴木孝幸選手、バドミントン・山崎悠麻選手が登場。まず、小池知事が主催者として、「今日の日を新たな契機として、パラスポーツムーブメントを一層発展させてまいりましょう」と挨拶を行いました。その後、森会長からは、「パラスポーツを今まで以上に応援していただき、楽しんでいただければ」、橋本会長からは、「東京大会で得た大きなレガシーを皆様とともに、世界に、そして未来に繋いでまいりたいと思います」と、東京2020大会後のパラスポーツ振興やレガシーについてお話がありました。

鈴木選手はパラスポーツについて「健常者の競技大会やプロスポーツのように、皆さんの目に当たり前のように触れるものになってもらいたい」と語られました。山崎選手は、「パラバドミントンにとって、初めてのパラリンピックで、たくさんの方に応援していただいた中で金メダルを取ることができ、本当に嬉しい大会でした」と東京2020パラリンピックを振り返りました。

パーソンズ会長は、東京2020パラリンピック大会について、「パラリンピアン活躍が日本の皆様の意識を変え、障害のある方々が共生社会の一員であることを実感できるようになった、誰かの人生をより良いものに変えることほど素晴らしいレガシーはありません」と語り、「親愛なる東京の皆様ありがとうございました。パラリンピックムーブメントは皆さんを愛しています」と挨拶を締めくくると、会場では大きな拍手が起こりました。

また、これからパラスポーツをさらに発展させるため、どのような活動をしていくか問われると、稲垣さんは「すぐにパリ大会も控えているので、スペシャルサポーターとしてできることを全力を尽くして盛り上げていきたいです」と、パリ2024パラリンピックへの思いを語りました。草薙さんと香取さんも、「色々な選手に興味湧くことをパワーに変えて、僕自身も発信していきたい」、「色々なところからパラスポーツを一人でも多くの方に知ってもらえるように盛り上げて行けたらと思います」とそれぞれ、今後の活動の抱負について語りました。

続いて、小池知事、三宅茂樹東京都議会議長、山崎孝明江東区長、人見秀司株式会社東京有明アリーナ代表取締役の4名が登場し、有明アリーナの開業を記念するテープカットが行われました。



パラリンピック1周年記念セレモニー



有明アリーナ開業記念テープカット

その後、車いすバスケットボール男子日本代表同士のドリームマッチを控えたチームホワイト、チームブラックの両チームが入場。ミライトワとソメイティが両チームをお迎えしました。両チームがウォーミングアップを行う中、会場では、第一部と同様、MCがハリセンでの応援の仕方についてのレクチャーを行いました。両チームのスターティングファイブが紹介された後、IPC特別親善大使の3名によるティップオフコールのもと、ドリームマッチがスタート。藤本選手がシュートを沈め、最初の得点はチームブラックに入りました。その後赤石選手が8得点を決めるなど活躍を見せ、16対20、チームホワイトがリードして第1クォーターが終了。続く第2クォーターでは香西選手が得点を決めるなど、着実に得点を重ねたチームホワイトが33対28とリードして前半が終了しました。

ハーフタイムを挟み、第3クォーターがスタート。一進一退の攻防が続く中、チームブラックが追い上げを見せ、42対41とチームホワイトが僅かにリードして第3クォーターが終了。続く第4クォーターでは鳥海選手、藤本選手がスピード感溢れるプレーを見せ、見事逆転し、62対56、チームブラックの勝利で試合が終了しました。観客席からは、大きなハリセンの音が響きました。

試合後、チームブラックのキャプテン鳥海選手は「一年前は叶わなかった、皆様に見てもらいながらバスケットをすることができて、何より嬉しかったです。日本代表はこの日のために頑張ってきたんだと思います」と、嬉しそうな表情で語りました。川原選手はパリ大会に向け「東京大会では銀メダルだったので、それより良い色のメダルを取れるように頑張っています。引き続き応援よろしくお願いいたします」と、パリ2024大会への抱負を力強く述べました。



鳥海連志選手



川原凜選手

エンディングでは、稲垣吾郎さん、草彅剛さん、香取慎吾さんが、パラスポーツ応援チャリティソング「雨あがりのステップ」を披露し、歌の途中からは、小池知事やパーソンズ会長、和合由依さん、鈴木選手、山崎選手、ダンサーらも登壇し、3人と一緒に会場を盛り上げました。

その後、小池知事は「これからもパラスポーツを皆様で応援してください。選手の皆さんも、観客の皆さんも、共に頑張っていきましょう」と呼びかけ、パーソンズ会長は「数日後には日本を離れることとなりますが、私の心の中でこのパフォーマンスは永遠に輝き続けます」と笑顔で語りました。会場の興奮が冷めやらぬ中、第二部が終了しました。



稲垣吾郎さん



草薙剛さん



香取慎吾さん



エンディング後の様子

■ 特別支援学校におけるVRシアター放映

都立北特別支援学校と八王子東特別支援学校の2校で、第一部の車いすバスケットボールエキシビジョンマッチのライブ映像や東京2020大会のアーカイブ映像のVRシアター放映などを実施しました。八王子東特別支援学校には、IPCのパーソンズ会長が訪れ、生徒と一緒にVRシアターの観覧やパラアーチェリーの体験などを行いました。その中でパーソンズ会長は、子供達に「障害のあるなしに関わらず、私たちは皆、人生でメダルを取れるということが、パラリンピック選手が教えてくれる大事なメッセージだ」と伝えました。

■ 臨場感 LIVE ビューイング

府中市郷土の森博物館のプラネタリウムでは、事前に募集した観覧者を対象に、東京2020パラリンピック1周年記念イベントの様子をまるで会場にいるかのような迫力でお楽しみいただける、臨場感LIVEビューイングを実施しました。

来場者からは、「いろんな角度からの視点がおもしろかった」、「没入感はすばらしく、楽しめた」といった声が寄せられました。



特別支援学校におけるVRシアター放映の様子



臨場感 LIVE ビューイングの様子